

栃木県庁
監督:阿久津定之

1. 大会概要
- ・日程 2006年8月25日(金)~27日(日)
 - ・会場 軽井沢プリンステニスコート
軽井沢町宮風越公園テニスコート
 - ・主催 (財) 日本テニス協会
 - ・主管 北信越テニス協会
 - ・企画 (財) 日本テニス協会実業団委員会
 - ・後援 朝日新聞社、長野県教育委員会、軽井沢町
 - ・協賛 軽井沢プリンスホテル
 - ・協力 ブリヂストンスポーツ株式会社、株式会社ミネムラ、
有限会社エムジェーピー、ゼビオ株式会社
株式会社ビクトリア
2. 試合方法
- ・ダブルス各地域代表男子32チームを8ブロック4チームに分け予選リーグを行い、各ブロック1位チームによる決勝トーナメント戦、また、各ブロック2位以下のチームによるコンソレーションを行う。
 - ・ダブルス2ポイント、シングルス1ポイント
 - ・8ゲームマッチ(8-8 タイブレイク)ノーアドバンテージスコアリング方式
3. 出場選手
1. 阿久津定之
 2. 金子隆行
 3. 法師人行雄
 4. 小林裕幸
 5. 野中一樹
 6. 江連雅晴
4. 試合結果
- 予選リーグ戦 対 旭化成(九州1位) : 8月25日(金)
- | | | | |
|-----|---------------|-------|--------------|
| | 栃木県庁 | 1-② | 旭化成 |
| D 1 | 阿久津定之
小林裕幸 | ○8-4● | 藤井寛達
清水健樹 |
| S | 金子隆行 | ●3-8○ | 河野幸一 |
| D 2 | 法師人行雄
江連雅晴 | ●3-8○ | 宮田博文
川並 隆 |

■予選リーグ戦 対 三菱化学（東海3位）：8月26日(土)

	栃木県庁	1-②	三菱化学
D 1	阿久津定之 小林裕幸	○8-3●	谷川 厚 森川勝文
S	野中一樹	●2-8○	近藤太一
D 2	法師人行雄 江連雅晴	●6-8○	酒徳理陽 太田祥文

■予選リーグ戦 対 YKK（北信越1位）：8月26日(土)

	栃木県庁	0-③	YKK
D 1	阿久津定之 小林裕幸	●6-8○	丹羽啓介 山田健二
S	野中一樹	●2-8○	後藤寛典
D 2	法師人行雄 江連雅晴	●2-8○	加藤正成 宮本政一

■コンソレーションC 1回戦 対 北海道教育委員会（北海道1位）：8月26日(土)

	栃木県庁	②-1	北海道教育委員会
D 1	野中一樹 小林裕幸	●6-8○	前田和寛 橋本 真
S	阿久津定之	○8-2●	工藤哲也
D 2	法師人行雄 江連雅晴	○8-2●	村田敏彰 広瀬史雄

■コンソレーションC 準決勝 対 NEC玉川（関東3位）：8月27日(日)

	栃木県庁	②-1	NEC玉川
D 1	野中一樹 小林裕幸	●8-9○ (3)	嶋田昌生 石河 剛
S	阿久津定之	○8-1●	高橋 淳
D 2	法師人行雄 江連雅晴	○8-4●	中島 豊 竹花 吏

■コンソレーションC決勝 対 札幌市役所（北海道2位）：8月27日(日)

	栃木県庁	1-②	札幌市役所
D1	阿久津定之 小林裕幸	○8-3●	木村功司 和合匠学
S	野中一樹	●0-8○	黒田 守
D2	法師人行雄 江連雅晴	○8-2●	亀谷利文 坪松 剛

5. 所感

■予選トーナメント 対 旭化成（九州1位）

旭化成とは3回目の対戦で、昨年も3敗しているだけに何とか勝ちたい相手だった。ダブルス1の阿久津・小林選手は前半2-4とリードされたが、その後6ゲーム連取し、幸先良く1勝したが、シングルスの子選手は相手はフォアハンドが武器で何本もエースを取られ、金子選手も随所にドロップショットを決めたが、結局3-8で敗れてしまった。これで1勝1敗となり、ダブルス2の法師人・江連選手に期待したが、相手はダブルス1、2を入れ替えられ、後一步が取れず3-8で負けてしまい、初戦を白星で飾れなかった。

■予選トーナメント 対 三菱化学（東海3位）

三菱化学は、前年度3位のチームだけにどこまでやれるか楽しみなチームでした。ダブルス1の阿久津・小林選手は相手のサーブをブレイクするとリズムに乗り、相手の調子が出る前にゲームを連取し8-3で1勝を上げました。続くシングルスの野中選手の相手は、ベースラインプレーヤーでストロークがバック、フォアともトップスピンドで打つ選手で、互角のラリーをするのですが、先にミスをしてしまい、結局ゲームが取れず2-8で落としてしまった。また、ダブルス2の法師人・江連選手にポイントがかかり、6-6まで競りましたが、法師人選手のサーブをブレイクされ、6-8で敗れてしまい、2敗となってしまいました。

■予選トーナメント 対 YKK（北信越1位）

YKKも常連のチームで、前年度ベスト8の強豪な相手でした。ダブルス1の阿久津・小林選手は6-6で小林選手のサーブ、ノーアドを取れなかったのが大きく響き、6-8で敗れてしまった。続くシングルスの野中選手、ダブルス2の法師人・江連選手も2-8で落とし、予選リーグ3敗し4位となってしまった。

■コンソレーションC1回戦 対 北海道教育委員会（北海道1位）

ダブルス1に今回初めて小林・野中選手を起用した。野中選手には初勝利をさせたかったが、6-8で負けてしまった。シングルスの子選手は、ベースラインプレーヤーで相性がよく8-2で勝ち、ダブルス2に入るところ日が暮れ、会場をプリンスホテルに移動して行った。法師人・江連選手は相手のサーブをいきなりブレイクし、法師人選手のサーブをノーアドからキープすると波に乗り、8-2で圧勝し、コンソレの初戦を突破した。

■コンソレーションC準決勝 対 NEC玉川（関東3位）

NEC玉川は同じ関東ですが、まだ、対戦したことがなく、今年は関東で3位に入っているチームなので、対戦が楽しみでした。この日は最終日という事もあり、3

面同時に試合に入りました。ダブルス1の小林・野中選手は、5-7とリードされましたが、何とかタイブレークまで持ち込み、後少しというところで残念ながら負けてしまいました。しかし、シングルの阿久津選手が8-1で勝ち、ダブルス2の法師人・江連選手も前日から調子があがり8-4で勝ち、2勝1敗でコンソレの決勝に駒を進めることができました。

■コンソレーションC決勝 対 札幌市役所（北海道2位）

いよいよ決勝まで進み、相手は2年前、ニセコで対戦した札幌市役所でした。決勝も3面展開で同時に試合にはいりました。ダブルス1の阿久津・小林選手は相手のサーブの調子が悪かった事もあり、8-3で勝ち、シングルの野中選手は0-8と敗れましたが、ダブルス2の法師人・江連選手は決勝も調子が良く8-2で快勝し、2勝1敗でコンソレ初優勝することが出来ました。

6. まとめ

今年は、4年連続5度目の全国大会だっただけに、上位進出を目指し練習してきましたが、大会前日、大黒柱の鈴木選手の身内に不幸があり大会に参加することが出来なくなりました。とてもチームにとっては大きな存在だっただけに苦しい試合展開が予想されました。しかし、そんな中、チームで鈴木選手のみまで頑張ろうとチーム一丸となり試合に臨み、リーグ戦では4位だったものの、前年度、上位のチームに互角に戦えたことはとても収穫になりました。また、コンソレでは優勝することが出来とても良い思い出になりました。今回、初出場した野中選手も1勝をあげることが出来ませんでした。手応えは充分感じられたと思います。野中選手はこの悔しさをきっと、来年の大会に発揮してくれるものと期待しています。

今年は、コート面数が確保できるということで8ゲームマッチで行われましたが、初日は別の大会と重なり、風越のコートが全面使用出来ず、初日1対戦のみで、2日目に3試合行われ、夜の10時まで試合をしたチームもありました。もう少し調整出来なかったかと思うところもありましたが、役員の方も遅くまで大変だったと思います。来年は、北海道帯広で行われるそうなので、チャンスがあれば是非来年も出場したいと思います。

最後に今年も全国に出場出来たのも、実業団委員会の方々のおかげだと心から感謝しております。次回こそ上位入賞目指し、頑張りたいと思いますので、今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

以上

